

地域に学び、地域と共に歩む学校を目指して

敦賀市立角鹿中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	5回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	5回(のべ)5日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	28人
授業ボランティア(含:低ボラ)	0人
登下校支援ボランティア	60人
その他(朝のあいさつ運動)	60人

(3) 特色ある活動

テーマ「輝け角鹿 ～三大伝統～」

具体的活動内容

伝統ある角鹿中学校区およびふるさと敦賀で働く方々を講師に招いて行った、様々な本校の活動を、今年1年振り返って成果をまとめた。

テーマ

1 基本的な生活習の確立

(1) 望ましい生活習慣の定着 「食育学習」

1年生の家庭科の授業で学校栄養教諭とのTT授業で、食物カードを使って、班毎に「献立の立て方」学習をした。バランスの良い1日の食事から1週間の献立メニューを考え、カロリーもパソコン入力しながら6とおりのメニューを考え、

日ごろは栄養のバランスなど考えていなかった生徒が、家庭での食事を考えるきっかけとなったようで朝食を含め、給などもしっかり食べられるようになってきた。

(2) あいさつ運動

PTAの協力で毎月第三水曜日に朝のあいさつ運動を行った。毎月10名程度の保護者が校門前や通学路に立ってあいさつを交わした。



2 学力の向上と授業改善

(1) 校内研究会では、一般授業における1人1回以上の授業公開(教科)と授業研究を行った。「わかる」「できる」授業を展開するため「言語活動を効果的に取り入れる」ことや「既習の知識技能の活用」「ICTの活用」を工夫した提案授業とし、教科を越えて同じ視点で研究を深め合った。

(2) 授業で習得した知識や技能を、言語活動を使ってグループで発表したり、全体に広めたりして、生徒の特性や個に応じた多様な学習活動ができた。このことで、既習学習の内容が不十分であることに気づき、自分の学習を見直すきっかけとなった。



3 心の教育の充実 「かけがいのない命」

1年生が、2月6日に助産師の佐野裕子さんを招いて「命の学習」を行った。『出産』というのは、「母親が産む」のではなく、赤ちゃんが「生まれる」と母親に『陣痛』としてサインを出し、母親の「産みたい」という気持ちと身体の準備がうまく合わさった母子共同の作業であることや奇跡的な確率で自分自身が存在していることなど「命」の尊さを学んだ。自分の命、みんなの命の大切さを確認するよい機会となった。



4 健康や体力づくり

講師に河島利和氏を招いて『日常生活と健康』をテーマに「ケガの防止」について実技を織り交ぜながらのわかりやすい講演会をしていただいた。「身体にゆがみがあると怪我が起こりやすいので普段から姿勢を考えることが大切で、

正しい姿勢を保つには…」と身体のゆがみを見つける方法やゆがみを矯正する実技を学びました。また、コイルをかざすと痛みが取れる不思議な体験もした。

5 キャリア教育

キャリア教育の一環として1年生が毎年実施している「ようこそ先輩」を、実施した。今年は、装道礼法きもの学院の川嶋外喜枝さん、敦賀工業高校の芝崎丈彦さん、瀧澤助産院の高橋幸子さんを招いての講演会となった。それぞれ「心の通うあたたかい社会をめざして」「自分の中の新しい発見」「対人援助職を選ぶということ」と題して行われた講演では、各分野の仕事に携わり、その仕事の大切さや苦勞すること、やりがい、そして働くことの意義など、今まで考えが及ばなかったことを、エピソードを交えながら分かりやすく話していただいた。「自分を知る」「働くこと」について学習を進めている1年生にとっては、とてもタイムリーな話を聴くことができ、夢や目標の実現のために更に一步踏み出した。



6 ふるさと教育

3年生が、ふるさと学習の一環として「敦賀ムゼウム」に出かけた。「人道の港 敦賀ムゼウム」では、敦賀の歴史に名を刻む「杉原千畝」氏の「命のビザ」について、観光ボランティアガイドの方の説明を受けながら学習を深めた。多くの命を救う決断をした杉原氏の勇気ある言動に、人の優しさと思いやりの心、そして責任ある行動の大切さについて学ぶことができた。



7 その他 「車いす体験・高齢者疑似体験」

2年生が車椅子体験・高齢者疑似体験をし、困っているときに手を貸してもらったときの安心感や困っている人へ言葉がけしたときの喜びを実感した。車いすを介助するときは、曲がるときに声をかけたり、ゆっくりと動かして安心してもらうことが大切であること高齢者や目が不自由であることの大変さを学び「人への思いやり・優しさ」が大切であることを再確認できた。

2 成果と課題

(1) 成果について

今年度も、祭りへの参加や地域の方々との交流を通して、地域に根付いている伝統を再確認し、先人たちが大切に受け継いできた精神を大切にする心が育まれたと感じる。体育大会でのPTAとの合同「フォークダンス」を今年も行い、今後も引き継がれる時代を超えた財産になってきた。また、キャリア教育や、俳句指導、旗護山登山、教科学習（体育・音楽）などでは、多くの地域の方々からご支援いただき、より幅広い学習に取り組むことが出来、大きな成果が得られた。特に、俳句指導では、つるがバショさん会が作成をした「松尾芭蕉 おくの細道 ～敦賀の旅～」の紙芝居をしていただいたことで、この角鹿地区に松尾芭蕉と関わることが多くあることを知り、改めて角鹿地区、そして敦賀のすばらしさを知ることができた。

このように、「地域から学ぶ」という視点での取り組みは、地域・学校協議会でも助言をいただきながら行ってきた。生徒たちには、地域の一員であるという実感と自覚が少しずつ定着してきたと感じられた取り組みとなった。

(2) 課題および次年度に向けて

地域との連携は、出来るだけ多くの方々に学校に来ていただく、学校での活動を見ていただくところからスタートすると考える。そのためには、学校に足を運びやすいオープンスクールの開催や、情報の公開、広報活動が大切となる。そのためには、HPや学校便りを広く地域の方へ発信していく工夫が必要がある。また、生徒を育てるためには、保護者の意識を高めること、地域ぐるみでの後継者育てが必要もある。この2つの視点を大切にして今年度の取り組みを振り返り、次年度に生かしていきたい。「地域と歩む」「地域と一体化」となる学校を目指して、より一層の地域・学校協議会の充実を図っていきたい。

※A4版1～2枚程度で作成してください。